



ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー 石丸 修太郎
(札幌西RC)

5月の始まりはゴールデンウィークということもあり、何となくぼんやりとしたものでしたが、7日のゴールデンウィーク最後の日曜日に地区のRLI卒後コースがあり、RLIを通じての人生勉強をさせて頂きました。そして12日の金曜日お昼から地区のRYLAセミナーが札幌市郊外の滝野自然公園のなかにある青少年山の家で開催されました。余裕をもって家を出たはずなのに、到着したら開始ぎりぎりという有り様で冷や汗ものでした。

13人の初々しい社会人が2泊3日の体験活動に参加されたのですが、地区RYLA委員会の皆様の周到に準備されたプログラムを次から次へとこなし、初めて会った仲間ともすっかり打ち解け、最終日の発表は堂々たるもので、自己中的な人、オタク的な人色々な人が一皮も二皮も向けた姿は、なかなか感激的な物でした。



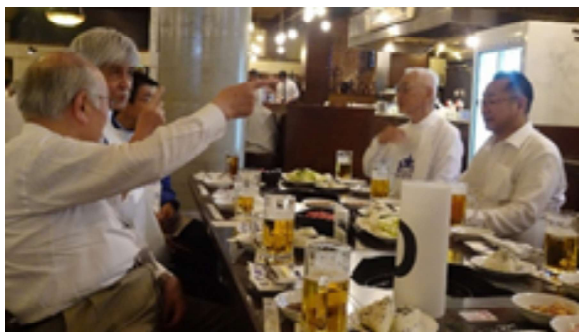
それにしても久しぶりの給食はどこか懐かしいものでした。

14日のお昼で修了したRYLAの地から、松下ガバナー補佐の車で白老に移動して第12グループのIMに参加しました。最初は、全国で5番目と言う国立博物館（ウポポイ）にて、アイヌの伝統の音楽と踊りを観て、その後、佐々木館長さんよりウポポイの意義やその役割などのお話を伺いました。

その後、場所を移動して郊外のレストランでIM会議を執り行い、続いて豪勢な焼肉パーティーとなりました。自家農場で育成した白老牛の焼肉は素晴らしい物でしたが余興の歌で場は大盛り上がりとなり、最後は「手に手つないで」でお開きとなりました。白老からの帰りのJRではすっかり寝込んでしまいました。

その翌週は、自分のクラブの移動夜間例会の観桜会があり、親睦委員会の趣向をこらしたプログラムで大爆笑連発となり大変楽しい時間を過ごしました。また、同じ週にはクラブのファイヤーサイド・ミーティングもあり7人という少人数でロータリーの神髄に迫る話で盛り上がりました。

そして20日は全国RYLA研究会が札幌グランドホテルで開催され、ホスト地区としておもてなしを精一杯させて頂きました。地区で行ったRYLAセミナーの紹介や、講演を聞いた後、何ととっても札幌ビール園でのジンギスカンが皆様のお目当てでしたので、元ジンギスカン大使である経験を活かして皆様に堪能して頂けるようアドバイスをさせて頂きました。松浦ガバナーエレクトもすっかりなじんでいました。



21日の日曜日、RYLA研究会の2日目のプログラムは欠席して、一路北に向かい第1グループのIMの開催地羽幌に雨の中のドライブを楽しみました。こちらのIMでは、自然環境保護について、地元の羽幌高校の生徒さんを巻き込んで、当然ロータリアンも一緒に活動されている方のお話を伺い大変良い勉強をさせて頂きました。

懇親会には、地元産の甘えびが振る舞われ、そして地元の歌姫による素敵な演歌と追分で大変な盛り上がりでした。4年振りに開催された懇親会に3人の支部長さんたちも大盛り上がりでした。



そしてこちらでも、最後は「手に手つないで」を全員で歌いお開きとなりました。その後は羽幌の街の闇に消えたのは言うまでもありません。

さて6月は親睦活動月間です。ロータリーの原点は親睦と奉仕ということになっています。とにかく、ロータリーと言う組織が成り立ち、継続するためにはクラブの会員がそれぞれを慈しみまた助け合うような素敵な関係となることが必須です。そのため親睦と言う活動が欠かせません。人それぞれ一癖も二癖もある中で、お互いのことを知合い、十分に理解を深めることが出来たら最高の人間関係が出来上がるのではないのでしょうか。

クラブにおける会員卓話も非常に効果的ですし、少人数によるファイヤーサイド・ミーティングもとても良いと思います。特に新入会員とのコミュニケーションは欠かせません。人のために良いことをする精神を理解して頂くためにも、会員相互の親睦は重要です。楽しいロータリーライフを送りましょう。